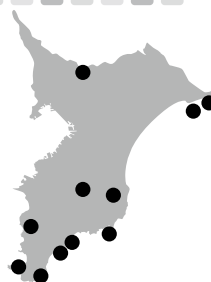


千葉歴史の散歩道

千葉の地層10選

～千葉には魅力的な地層がいっぱい～

県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 後藤 亮



令和2年1月17日に韓国で開催された国際地質科学連合の理事会において、市原市田淵にある地層「千葉セクション」がGSSP（国際境界模式層断面とポイント）に認定された。このことにより、今まで名前が付いていなかった新生代第四紀中期更新世（約77万4千年～12万9千年前）がチバニアン（ラテン語で「千葉の時代」を意味する）と名付けられることとなった。日本の地名に由来した名前が地質年代に使われるのは、初めての快挙である。

県教育委員会では、チバニアン認定の快挙を祝うとともに、これを機に多くの方に地質に興味をもってもらうため、有識者による検討会を重ね「千葉の地層10選」を選定した。選定のポイントは、「見学しやすい場所にあること」、「古い時代から新しい時代まで千葉の成り立ちを楽しめるものであること」、「みどころのある特徴的な地層であること」である。

選定された11箇所は以下のとおり。

- ・木下貝層（印西市）
- ・犬吠埼の白亜紀浅海堆積物（銚子市）
- ・屏風ヶ浦（旭市・銚子市）
- ・養老川流域田淵の地磁気逆転地層（市原市）
- ・上総丘陵の砂岩泥岩互層（いすみ市）
- ・鋸山の「房州石」（富津市）
- ・勝浦鵜原の黒滝不整合（勝浦市）
- ・鴨川松島（鴨川市）
- ・保田層群のカオス層（鴨川市）
- ・沼サンゴ層（館山市）

・白浜の海底地すべり堆積層（南房総市）

紙面が限られているため、ここで詳しく解説することはできないが、それぞれ魅力的な地層である。詳しい解説を御覧になりたい方は、千葉県のWebサイト上で、解説パンフレットがダウンロードできるので、こちらを御覧いただきたい（検索サイトで「千葉の地層10選」で検索）。

最後に、なぜ「10選」なのに11箇所あるのか、よく聞かれるのでお答えする。

当初は、10箇所に絞ろうと有識者会議で検討を重ね、11箇所まで絞ったのだが、それ以上絞ることができず11箇所となったのである。それほど、千葉県には魅力的な地層が多いということである。

みなさんもぜひ現地に足を運び、千葉の大地の成り立ちを実感してみてほしい。

※現地に行く際は、すべりやすい場所等もあるので、十分気を付けてほしい。



白浜の海底地すべり堆積層

千葉教育 蓮（No. 662） 令和2年7月9日発行

編集・発行

千葉県総合教育センター（代表）櫻井 比呂樹

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1204

URL <http://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所

千葉市療育センター いずみの家

〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3

TEL 043-216-2465